

2020年 同期生の新刊紹介

上原 昇 (2組)

昨年(2020年)は、同期(65期)による書籍も何冊か刊行されました。
ある人によると、デジタル化の推進、高度化により、昔より簡単に本の編集や発行
が出来るようになったとのこと。

ただ一方、本を買って読む人が減っていることも事実であり、書籍・出版業界も
大変な時代になっています。

以下、4冊を紹介します。既に一部は、65期HPで案内済みです。

NO	題名	著者名 (組)	出版社	刊行年月
01	文学の認知空間 近代日本文学と東京	佐藤義雄 (11組)	蒼丘書林	2020. 6
02	戦国三代と天下人	市村 到 (4組)	悠光堂	2020. 7
03	記紀神話伝承史	柳沢賢次 (1組)	東洋出版	2020. 10
04	地下トンネルの世界から	田中志津夫 (2組)	共同文化社	2020. 11

1. 佐藤義雄 (65期 11組、佐久市出身、明治大学名誉教授)

『文学の認知空間 近代日本文学と東京』

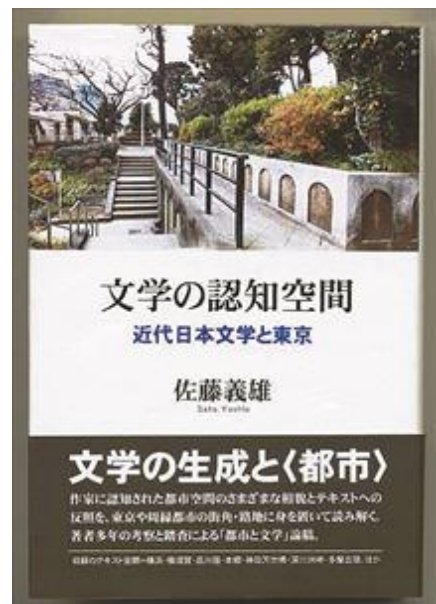
佐藤さんは一昨年、明治大学教授を退任しましたが、その1年後に本作を上梓
しました。

前著『文学の風景 都市の風景』(2010年、蒼丘書林から)の続編ともいえる400
ページ近い大作です。芥川龍之介、夏目漱石、泉鏡花といった昔の文豪から山
川方夫、北村透谷、岩本素白といった個性的な作家の代表作を取り上げ、その
舞台となる場所と著者の認知空間との交錯を読み解いていきます。論稿集とい
うこともあり、難解な字句も多く、傍らに漢和辞典とインターネット検索が欠
かせません。

読み進めるうちに行ったことのある場所に遭遇
すると引き込まれてしまいます。

まさに佐藤先生の講義を聞いているような感じ
でしょうか。

佐藤さんの案内で当該認知空間を歩いてみたい
と思います。



2. 市村 到 (65期4組、御代田町出身、
上田第一中学校長など歴任)

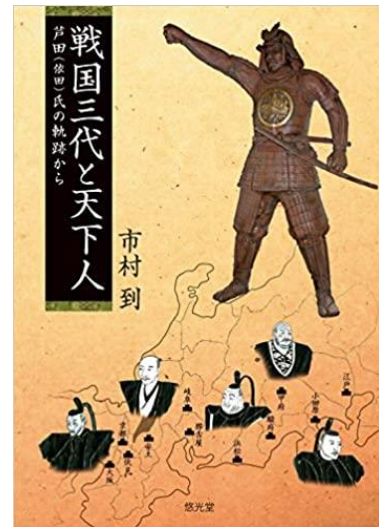
『戦国三代と天下人～芦田(依田)氏の軌跡から』

20年12月4日付けの日経新聞文化欄に「真田に伍した芦田氏の謎」として大きく紹介されました。

65期HPには、市村さんと同級の成澤文和さんの感想文が掲載されています。

600ページを超える百科事典並みの厚さの本で、手にすると驚きます。

特に、歴史好きな人には市村ワールドが楽しめるお薦めの本です。

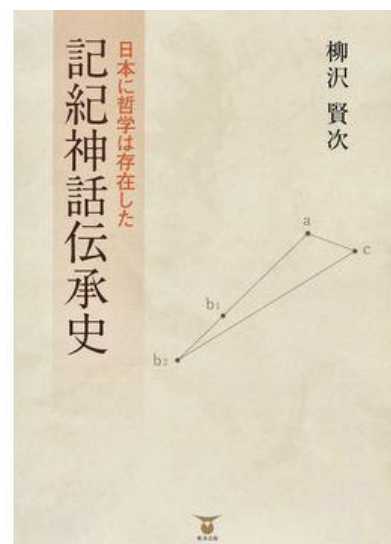


3. 柳沢賢次 (65期1組、御代田町出身、大学事務業務の傍ら「古事記」、
「日本書紀」を通じて古代史・神話研究を続ける)

『日本に哲学は存在した 記紀神話伝承史』

同窓会会報 101号に紹介されています。

65期HPでも紹介しました。

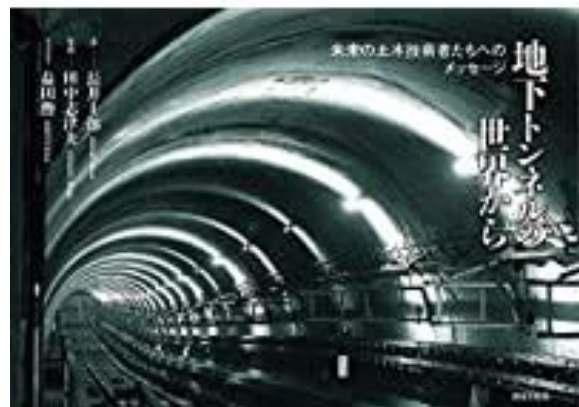


4. 田中志津夫 (65期2組、和田村出身、日本交通技術(株)OB)

『地下トンネルの世界から - 未来の土木技術者たちへのメッセージ』

(共同文化社から、共著)

私(上原)と同級の田中君ですが、年賀状に2冊目の本を上梓するとあり、調べてみました。



(2021年1月記)